

鈍 考

ブックディレクター幅允孝が主宰する私設図書室&喫茶
「鈍考 donkou / 喫茶 芳 kissa Fang」
2023年5月17日（水）京都市左京区に開設

喫
茶 芳

設計：堀部安嗣建築設計事務所



Photo : Mitsuyuki Nakajima

有限会社BACH代表・ブックディレクターの幅允孝は、主宰する私設図書室&喫茶「鈍考/喫茶 芳」を、2023年5月17日（水）に開設します。

有限会社BACH（本社：東京都渋谷区）の京都分室となる「鈍考」は、市中から少し離れた檜林の借景が美しい、傍に小川が流れる静かな立地。「時間の流れの遅い場所」を意図したこの建物「鈍考」1階は、BACHが18年前の創業以来アーカイブしてきた約3000冊の蔵書を手に取り読める私設図書室となり、また併設する「喫茶 芳」では、手廻し自家焙煎で深煎りにローストした珈琲を、ネルドリップの抽出で飲むことができます。

「鈍考」は、90分6名（1日3回の入れ替え制）のみをWEB予約で受け付ける小さな分室ですが、土地探しの段階から幅と一緒に計画を進めてきた建築家の堀部安嗣は、伝統的な日本の住宅建築の手法と最先端の技術を織り合わせ、この場所ならではの居心地と温かみ、そして静かに流れる時間をつくりあげました。

また、施工を担当した羽根建築工房も「手刻み」と呼ばれる日本古来の伝統工法を随所に用い、堀部の描いたプランを見事に実装させ、五感に訴える建築的引力を生み出しました。

時間の奪い合いが激しく、人と本の距離が少しずつ離れてきてしまっている昨今ですが、幅は「本だからこそ伝えられる何か」を未だ探求しようとしています。

現在のテクノロジーやシステムが人間に求める即時制や日々の高速回転とは距離を置いた「鈍さ」。それをほんのひと時でも体感し、1冊1冊の本（=先人の智慧）に深く潜るためにつくった、未来に向けた本と時間の実験室が「鈍考」です。

BACH 京都分室 「鈍考 donkou/喫茶 芳 kissa fang」について

名称：^{どんこう}鈍考/^{ファン}喫茶 芳

住所：京都府京都市左京区上高野掃部林町4-9

アクセス：三宅八幡駅から徒歩10分程

お問合せ先：info@bach-inc.com

WEBSITE：<https://donkou.jp>

INSTAGRAM：https://www.instagram.com/kissa_fang/

基本営業日 水曜～土曜 11:00~12:30（第1部）/13:00~14:30（第2部）/15:00~16:30（第3部）

利用方法 本施設はWEB予約制になっております。ウェブサイトよりご予約ください。

1枠（90分）6名まで、1名様につき1日1枠までのご利用とさせていただきます。

価格 施設使用料 + 珈琲1杯 ¥2000（税別）

お願い

- ・本施設に駐車場はありません。建物前、石畳のスペースに停めてください。
- ・駐輪場有り。建物前、石畳のスペースに停めてください。
（但し、施設内での盗難・破損に関しては責任を負いかねます。ご了承ください）
- ・叡山電鉄の鈍行列車など公共交通機関のご利用をお勧めしております。
- ・WEB予約後にメールで伝達する当日の暗証番号を用いて、スマートロックを開けて入場してください。
- ・入場後はロッカーに荷物・貴重品をお預けください。
また、「鈍考」としては、スマートフォンのお預けも推奨しています。



Photo : Mitsuyuki Nakajima

「鈍考」の想い

時間の流れの遅い場所をつくりたい。

そのために設計された私設図書室／喫茶が「鈍考／喫茶 芳」です。

人を取り巻く日々の流れが加速するなか、
社会のシステムやテクノロジーが求める速度から、敢えて鈍くあること。
そして、人としての愉しさや健やかさについて自発的に考え続けること。
それが、「鈍考」で促したい時間です。

手廻し焙煎した豆をネルドリップで淹れた珈琲を味わいながら、本を読む。
なんということのない孤独な時間と、書物という過去の誰かとの交感が、
これからの人間の創発や豊かさの基盤になると信じて、ここに「鈍考」をひらきます。

「鈍考」の本について

外部記憶が充実し、生成系AIが機械学習を日々進めるなか、インターネットに浮遊していない知見やアイデアを人が探求するときに、紙の本だからこそ伝えられる何かがあると私たちは考えています。

書き手がしぼり出した言葉を、読み手が丁寧にすくいあげ、交感し、解釈すること。過去の言葉を未来のための血肉として変貌させること。

それらしい言説のまとまりを作ることはAIがしてくれる時代ですが、著者と読者が成す1対1の精神の受け渡しは、人間が自発的に考え、判断し、未知を発見するための基盤になると考えます。

そのための集中と、時間のフレーミング、そして心の弛緩がここ「鈍考」には在ります。
深煎り焙煎の濃密な珈琲で、そんな回路を呼び覚ましてください。

「鈍考」主宰 幅允孝

「喫茶 芳」の珈琲について

手廻しロースターで焙煎した豆をネルドリップで抽出します。1時間ほどかけて1キロだけ、ゆっくりと深煎りでローストにした珈琲豆に、一滴一滴を慈しむように注ぐその時間。それは、静寂でありながら確かな手応えもあり、その遅さも含めて訪れる人の心を照らすものであればよいと願っています。

「喫茶 芳」店主 ファン

幅允孝（はば・よしたか）プロフィール

有限会社BACH（バッハ）代表。ブックディレクター

人と本の距離を縮めるため、公共図書館や病院、学校、ホテル、オフィスなど様々な場所でライブラリーの制作をしている。安藤忠雄氏が設計・建築し、市に寄贈したこどものための図書文化施設「こども本の森 中之島」では、クリエイティブ・ディレクションを担当。最近の仕事として「早稲田大学 国際文学館（村上春樹ライブラリー）」での選書・配架、札幌市図書・情報館の立ち上げや、ロンドン・サンパウロ・ロサンゼルス等のJAPAN HOUSEなど。神奈川県教育委員会顧問。

ファン プロフィール

「喫茶 芳」店主。有限会社BACH（バッハ）取締役

神奈川県横浜市生まれ。手廻しロースターで焙煎した深煎り珈琲をネルドリップで抽出する。2年間東京・四谷荒木町で「喫茶 芳」を営業。「鈍考」のオープンを機に移転する。

設計および施工について

<鈍考の設計について> 堀部安嗣

“手間を惜しまず無駄がない”

原初的で歴史ある手仕事や人の営みにはこんな美しさがある。

本に関わること。

珈琲を淹れること。

木を加工して建てること。

土を塗ること。

樹を植えること。

そして建築の設計も同じようにありたいと思った。

でもこれらは特別なことのように、本来まったく特別なことではない。

そんなあたりまえの営みと、あたりまえの遅い時間の流れをふつうに愉しめる場所があるといいなあ、そんな思いと力がこの京都の地に集結してこの鈍考はできました。

堀部安嗣 プロフィール <https://horibe-aa.jp>

建築家、京都造形芸術大学大学院教授、放送大学教授。1967年、神奈川県横浜市生まれ。筑波大学芸術専門学群環境デザインコース卒業。益子アトリエにて益子義弘に師事した後、1994年、堀部安嗣建築設計事務所を設立。2002年、〈牛久のギャラリー〉で吉岡賞を受賞。2016年、〈竹林寺納骨堂〉で日本建築学会賞（作品）を受賞。2021年、「立ち去りがたい建築」として2020毎日デザイン賞受賞。主な著書に、『堀部安嗣の建築 form and imagination』（TOTO出版）、『堀部安嗣作品集 1994-2014 全建築と設計図集』（平凡社）、『建築を気持ちで考える』（TOTO出版）、共著に『書庫を建てる 1万冊の本を収める狭小住宅プロジェクト』（新潮社）など。

<鈍考の設計について> 羽根信一

鈍考/喫茶芳の施工を手がけさせていただいて、現場の立地やそれをよりよく引き立たせる堀部さんの設計、クライアントの幅さんのお人柄やこの地で過ごす時間への考え方がぴたりと合って作り手として、とても気の抜けないお仕事となりました。

ご夫妻の情熱やご指名くださった堀部さんの期待に応えるべく、この建物の核ともなろう1Fの材の選定にはぐっと力が入っていることは見ての通りで、凛とした材は大工の士気を上げ、それがはたまた現場へ入る職人たちへも伝わり、羽根建の宝ともいえる、素晴らしい家ができたと自負しています。

幅さん、ファンさんとの出会いには感謝しかありません。これから鈍考/喫茶芳へ立ち寄られるたくさんの皆さんの出会いと感動の場となっていくこと楽しみに、そして願っています。

羽根建築工房 プロフィール <https://hanebou.com>

有限会社羽根建築工房は大阪市内で「人の手と心で造りこむ、温かい美しい木の家」を手がけるべく、代表の羽根信一とスタッフ3名、大工10名の小さな工務店。代表の羽根は三重県熊野市出身。小学生の頃から作文に「将来は大工さんになりたい」と書いていたその夢は18歳の時、奈良で大工として弟子入りし叶うこととなった。その後大阪の工務店にて大工・現場監督をへて独立、44歳で羽根建築工房を設立。自社では木組み手刻みの美しい手仕事にこだわった家づくりをしている。また、中村好文氏の「小屋においてよ」の実物展示のHanemHut、堀部安嗣氏の関西方面の案件も含め、建築家との協業も多い。2018年にはこの素晴らしい大工の技術を後世に残すべく「手刻み同好会」を立ち上げた。

手刻み同好会 プロフィール

<https://www.facebook.com/tekizamidoukoukai/>

2018年発足。代表の野池政宏（住まいと環境社）と大阪の羽根建築工房が、木造住宅の木組みの墨付け、手刻みの技術の継承者である大工不足、リクルートや育成をテーマに共感する仲間を増やし、様々な立場の方々に向けて手刻みの価値、魅力の発信を行い、共に次世代へバトンをつなげていこうと、全国の有志の工務店、学者、建築関係者のみならず一般の方々にも積極的に応援参加いただき手刻み同好会は結成されている。

2021年には奈良吉野で必要最小限の小屋を手刻みで行う棟上げライブを開催。

建築構造家の山辺豊彦氏との勉強会や構造や継手の実験、有志工務店の現状見学や構造見学会や完成見学会を年間通して活動している。

BACH 京都分室 「鈍考 donkou / 喫茶 芳 kissa fang」 関係者クレジット

建築：堀部安嗣建築設計事務所

施工：羽根建築工房

ロゴデザイン：尾原史和（bootleg）

家具計画／制作：松澤剛（E&Y）

家具制作：吉川和人

造園：伊庭知仁（庭知）

WEB：谷戸正樹（MYDO LLC）／地脇創

写真：中島光行

掲載に関するお問合せ先

HOW INC.

pressrelease@how-pr.co.jp

03-5414-6405

読者お問合せ先

「鈍考 / 喫茶 芳」

info@bach-inc.com